

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101436		
法人名	特定非営利活動法人 さわやか福祉ネットワークぎふ		
事業所名	グループホーム柳ヶ瀬		
所在地	岐阜市金町4丁目28番地		
自己評価作成日	平成21年11月10日	評価結果市町村受理日	平成22年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170101436&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全般的にADLの低下傾向にありますが利用者の気持ちに寄り添いながら利用者個人の尊厳を認め本人の思いや希望を受け入れ、一人ひとりの能力に合わせてそれをかなえる方法を考えながら、支援することを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いつまでも住み慣れた地域に住み続けたい」との高齢者の思いを実現すべく設立されたグループホームの先駆的な事業所である。昔ながらの美容院を改装したホームは、一見レトロな雰囲気の中に遊び心を掻き立てるような構造で、それが高齢者にとって落ち着く空間になっている。開設以来の利用者も数名あり、管理者はじめ職員も定着していることが安心に繋がっている。住みなれた地域で心地よく暮らし続けている様子が感じ取れるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示しミーティングや申し送り時に地域の中でその人らしい生活が送れるているかを確認し情報を共有しています。	出会い、ふれあい、学びあいの運営理念の下、具体的な運営方針がホールに掲示され、ミーティングや申し送りの際に職員間で情報共有が行われ実践されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週2回のごみ収集日に鳥よけネットを出し、片付けその場の清掃を行っています。散歩や買物に出かけ近隣との挨拶を交わしています。	町内には独居の高齢者が多く住んでいるため、ホーム職員が毎週2回の生ゴミの日は早朝より鳥よけのネットを出し、回収後は清掃を担当するなど、地域に貢献している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受入をしています。運営推進会議で認知症についての議題を取り上げて地域に発信しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の参加により色々な情報を聞くことができサービス向上につなげたり、ホームの広報として役立てています。	市・地域包括支援センター・社会福祉協議会の職員、民生委員、自治会役員、老人会副会長、家族など沢山の参加のもと、2ヶ月に1回実施され、利用者に関する相談や行事の情報収集などが行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき利用者の近況や相談指導をお願いしています。	毎月、市に対してホームの利用状況を報告しており、市の情報を得てホームを見学する人もある。また、生活保護の利用者については、成年後見人を通じて市の福祉課との連携も深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権を守ることが基本であることを認識して、日々のケアを振り返り拘束は行わないことを実践しています。	以前に、骨折後の利用者に対し、転倒予防のため、一時的に抑制帯を使用したことがあるが、現在はなく、身体拘束に関する研修も実施されており、拘束の無いケアに努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングで確認を繰り返かし、管理者はスタッフの疲労やストレスが利用者に悪影響を及ぼさないか把握をしています。			

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者が2名いるので、後見者と会うときに理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を相手が理解できるまで丁寧に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月近況報告を行っています。また年2回の家族会で何でも相談してもらえるような雰囲気づくりを心懸けています。	年に2回、家族会を開催しており、成年後見人を含め平均5家族の参加がある。家族参加のない利用者には職員が寄り添い、会食しながらの楽しい雰囲気の中、意見や要望を聞き出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個々に話し合う機会を設けています。	理事長とは、年2回、本部事務所でゆっくり面接する機会がある。理事長はとても気さくで話やすく、職員の話をよく聞いている。管理者に対しては、日々の業務での気づきや提案なども直ぐに伝え、ミーティング等で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断の実施や介護福祉士等の資格取得に向けた支援をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフに対しては1ヶ月間、個別に研修を行います。多くのスタッフが研修を受講できるように努力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同時期にオープンしたグループホームと情報交換しています。協議会に加入しているので、分からない点を教えてもらうなどしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談をしっかりと、家族、本人の希望を聞き対応しています。入居後も本人の気持ちを大切に傾聴しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が望んでいることを理解してホームとしてどのように対応していくか、事前によく話し合いをします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを十分に理解して権利擁護や福祉用具の活用など必要に応じて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あくまでも主役は利用者本人で、目線を同じにして日々の生活の中で不安や喜びを分かち合い共に生活できるように取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況便りなどで家族と情報を共有して協力を得ながら対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に行っていた美容院や眼科に現在も通っています。また家族のいない方でも昔の仲間が面会に来て、交流が続いている利用者もいます。	馴染みの美容院や以前にかかっていた眼科に家族と一緒に掛けている。散歩途中で商店街の人と昔話をしたり、友達の訪問も歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係についてスタッフが情報を共有して、日々の状態を注意深く見守っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居していた家族の方で、デパートや商店街の買物ついでにホームに立ち寄ってくれる方が多いです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを言葉で表現できない利用者が多いので表情や態度でシグナルを読み取り対応しています。	言葉で発信できる人には、希望や要望を常に聞きだしており、言葉で伝えられない人には、トイレ、外に行きたい等をシグナルで読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前訪問を行い、家族からの情報や本人からの話をじっくり時間をかけて聞くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルを中心に身体状況等を見守りながらその時の生活リズムを確認して受容しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を大切にしてミーティング、ケアプランの評価など行い、反映させています。	ホームに入居して長い人が大半であり、徐々に、身体機能や認知の低下は避けられないが、現状を評価し、本人・家族の要望を踏まえ出来ることへの支援や身体機能維持等を目標に、ミーティングで話し合い、具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を毎日記録して、改善する箇所を話し合い介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて受診や送迎等、対応しています。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して生活ができるように民生委員や長生会のボランティアの協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医と24時間対応の関係が確立されています。以前から通っていた眼科を受診している人は2人います。	協力医は内科で24時間体制が取られているが、整形外科、精神科の連携医もある。馴染みのかかりつけ医へ家族と受診する人もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護を受けています。分からないことは随時聞いて指導を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるADL低下や認知症進行予防のため、医療機関、家族と連絡を密に取り情報を交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての基本方針を文書で説明してそれぞれの関係者と話し合いながら支援しています。	ホーム入居時に、看取りに関する基本方針を説明している。病状が進行した場合、主治医と家族の話し合いのもとホームでの看取りを希望される場合は受け入れている。現在も終末期の利用者がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について機会がある度にマニュアルの確認を行い、周知徹底を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い1人に1つある避難リュックの中身の点検を行っています。	避難訓練は、年2回、ホーム独自で行っている。玄関にヘルメットと避難袋が利用者分かけてあり、中身の点検が行われている。	街中の既存の住宅を利用しているため構造が複雑で、階段や廊下も狭く、災害時の避難に不安を感じる。訓練に消防署の指導を受けたり、運営推進会議に訓練を行うなど現状を把握し、避難方法の指導を受けられるよう働きかけられたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時に運営方針について話し合い、その中で利用者の尊厳やプライバシー厳守を再確認しています。	職員は利用者それぞれに優しく話しかけており、トイレ誘導や介助にもそれぞれのレベルに合わせた丁寧な介護が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思決定できる場面作り、働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる1日の流れがありますが、各自の状態を配慮してその時の本人の気持ちを大切に個別支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	等身大の鏡を設置しているのでその前で服の乱れをなくしたり整髪している人が多いです。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADL低下により一緒に行ったり食事を取る機会がもてなくなりつつあります。現在は食事介助者が3名います。	食堂の2つの大きなテーブルで、利用者と職員と一緒に食事を摂っている。味付けを聞いたり、献立を伝えたり、お替りを勧めたりと、手を出さずにゆっくりと食事を楽しんでいる。	テーブル、椅子の高さが体に合わず食器の中が見えないような利用者があった。現在、検討中のようなのであるが、早急に対応されたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサーのトロミ食の人が2名いて一品ずつミキサーにかけています。水分は1日の摂取量を目安に、こまめに補給することを心懸けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食、昼食後はうがいをして夕食後は歯磨きをしています。トロミ食の人はスポンジの使い捨てで口腔内の洗浄を行っています。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使わない介護をモットーにしてきましたが、利用者の全体的な高齢化に伴い、必要とする人が増えました。現状は一人ひとりの排泄パターンを把握して支援しています。	1階・2階共に1ヶ所ずつのトイレがあり、自立の人、誘導の人がある。夜間はポータブルを使われる人が数名あり、夜勤者は1階に居り、2階の物音で見守り、介助に走っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録して情報を共有しています。毎日の日課でおなかすっきり体操をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を決めているが、別の日に入りたい希望者にはそのように対応しています。入浴をしない人には足浴をしています。	入浴は隔日の午後に行われており、20～30分かけて利用者のできることは手を出さず、見守っている。入浴されない人には足浴やエアーマッサージも行っている。	脱衣室と洗面所が一緒になっており、洗剤や薬品が手の届くところに置かれている。今の利用者には問題はないようであるが、万一の事を考え見えない工夫が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日昼寝をする人もいますが、日中の離床促進、レクレーションへの参加、散髪等で活動を多く取り入れ、夜間安眠につなげています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりのファイルを作り服薬確認できるようにしています。服薬時には本人に手渡しして飲んだことを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでもらったり、片付けなど自然にホーム内の役割分担が来ています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日課になっています。能力に合わせて散歩コースを本人と決めています。	散歩が日課となっており、金公園、柳ヶ瀬商店街、金神社など、利用者の体調や歩行力によって散歩コースが分けられている。月に1回はドライブに出掛け、喫茶店に寄るのを楽しみにしている。	

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩の途中で買物をする人もいて、自己管理している利用者もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる利用者もいます。宛先が間違っていないか確認をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で作った作品を部屋に飾ったり、談話室に展示している作品を家族に自慢気に見せている利用者もいます。	談話室は手作りの作品が飾られ、温かい空間である。街中ではあるが、騒音もなく、日当たりも良い。季節的にも、加湿器が置かれ、高齢者への配慮が表れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブル1つをいこいの広場、2階のスペースを仲良しコーナーとして活用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた道具を持参してもらいます。自立度の高い人で自分の好みに工夫している利用者もいます。	既存住宅の利用のため、四角い部屋、長細い部屋、窓のある部屋、無い部屋等様々な居室がある、家具や位牌など個々のカラーがあり、また、担当職員が丁寧に掃除しており、居心地の良い居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態変化に応じて、手摺をつけたり目印をつけたりしています。		